

2026 年度 水・地域支援事業（ビジネスプランコンテスト）選考結果総評

2026 年度の水・地域支援事業（ビジネスプランコンテスト）への応募件数は、昨年度とほぼ同水準であり、関係者の間で本事業の認知が着実に進んでいることがうかがえます。審査の結果、課題提起・付加価値創造コース（アイデア募集）で 4 件、課題解決・事業化コース（プラン募集）で 3 件を採択いたしました。

課題提起・付加価値創造コース（アイデア募集）

本コースでは、提案の新規性に加え、地域の水に関する課題の捉え方が的確であるか、水・地域との関わりが明確であるかを重視しました。ユニークなアイデアであっても、水に関する課題認識が不十分なもの、実現性や収益構造が不明確なものは採択していません。

応募 17 件のうち採択は 4 件にとどまりましたが、採択したアイデアはいずれも具体的な地域をベースとし、水に関わる課題を的確に捉えたうえで、地域の水の多様な価値を発見し、それを伝え、楽しみ、活かす工夫が盛り込まれていました。これらの提案は、地域への興味・関心を喚起し、関係する人の輪を広げる可能性を感じさせるものです。

採択案件については、今後、本支援事業の「プラン募集」や当財団の研究・活動助成事業への応募につながるものと期待しています。

課題解決・事業化コース（プラン募集）

本コースでは、事業の背景と目的、事業計画、実施可能性の 3 点を重視して審査を行いました。応募提案のうち 6 件が 2 次審査（5 件がプレゼンテーション審査、1 件が書面質疑応答書への回答^(注)）に進み、その結果、以下の 3 団体からの応募を採択しました。

- ① 東京大学 大学院新領域創成科学 国際協力学専攻 資源環境管理学分野
- ② 株式会社いたばしトゲトゲ
- ③ 信州大学理学部物質循環学コース

採択した提案はいずれも、

- ・ 水に関わる社会課題を的確に捉えていること
- ・ 事業化に向けたロードマップが明確であること
- ・ 実証や検証に基づく実現可能性が高いこと

が評価されました。

具体的な内容は非公開ですが、いずれも地域の水環境や資源管理に関する課題に対し、技術的・社会的アプローチを組み合わせるものであり、事業化に向けた展開が期待されます。

注：令和 8 年熊本地震で被災された応募者を対象に実施した。

一方、その他のビジネスプランについては、新規性、顧客ターゲットへのアプローチ、社会的課題解決に向けた実施体制などの点で採択に至りませんでした。

また、今年度は、「選考委員特別賞（奨励賞）」に該当するビジネスプランはありませんでした。

来年度以降も本支援事業を継続し、以上の審査方針に基づいて選考を進めてまいります。引き続き、水と地域に関して事業化につながる斬新なビジネスアイデア・ビジネスプランのご応募をお待ちしております。

公益財団法人 水・地域イノベーション財団